

指導計画

学習過程	予想される活動	支援と評価 (通常T1T2で行う。) 指導上の留意点 評価の視点 《評価方法(評価の関連図参照のこと)》	時間	関・意・態	思考・判断	技能・表現	知の総合化	評価基準 十分満足出来る状況 おおむね満足できる状況	身に付けた い力 10 項目
	事前の実態把握	AE-3 《学習意欲に関する質問紙法での調査》							
	<p>耳が聞こえない世界ってどんなだろう？</p> <p>・聴覚障害者の生活について想像したことから聴覚障害のいろいろなことに興味・関心をもち、次時に予定している聴覚障害者との交流会に向けてどんな自己紹介を工夫したらよいか、考えたりやってみたりしながら交流会への意欲を高める。</p> <p>生活経験とのかかわりから耳が聞こえない生活について様々に想像できるように話し合う。自由な話し合いの雰囲気を楽しみながら子どもの学習意欲の高まりをみたい。子どもの素直な思いを大事にふくらませたい。子どもたちから出なければ、教師の模範演技を提示して、自分たちなりに考えられるように配慮する。 《C-2》 《A-3 行動、発言、つぶやき、しぐさ、ワークシート》</p>	1					聴覚障害に関わる様々なことに興味・関心をもちながら、聴覚障害者との交流に意欲的に取り組んでいる。 聴覚障害者との交流に楽しく取り組んでいる。 コミュニケーションの方法を自分から思いつき、いくつかの方法を組み合わせたたりするなど、工夫して試したりして表現することができる。 コミュニケーションをいろいろな方法で試したり表現したりすることができる。		
	<p>さんとなかよくなるう！</p> <p>本物にかかわる感動体験の場 (聴覚障害者を招いての交流体験活動1)</p> <p>・聴覚障害者のさんと交流する。自己紹介をしたり興味・関心のあることについて質問したりした後、ジェスチャーゲームなどの簡単なゲームをしながら楽しく交流し、聴覚障害や聴覚障害者との交流について興味・関心を高める。</p> <p>子どもの伝わりにくい自己紹介を手話通訳者を通じて伝わるように配慮する。また、さんに質問したいことを手話通訳者を通じて行えるようにする。 自己紹介がむずかしい子どもには援助できるようにする。 T1T2は、積極的に関わられるように言葉かけなどの支援をする。 T3は、ビデオカメラで自己紹介やゲームなど交流の様子を記録する。 《A-1 行動、発言、発表、つぶやき、しぐさ》 《C-2》 《AEFGH-5 外部講師の感想や意見》 《AEFGH-3 ビデオカメラ、ワークシート、作文、お礼の手紙》</p> <p>子どもの興味・関心を十二分に引き出し高めるために、本物にかかわる感動体験の場を設定する。子どもの内面をできる限り実態把握できるように、観察法では主にT2とT3が、目立った言動だけでなく小さなしぐさやつぶやきにも注意して見取る。自分自身の良さに気づかせたり、自信をもたせるために、おもにT1が言葉かけや会話法、外部からの評価を工夫する。</p>	2 3					生活経験の中から自分なりの思いをもち、自信をもって活動しようとしている。 生活経験を思いつくかべながら、自分なりに活動しようとしている。	身の回りのいろいろなことに関する関心・意欲・態度	
	<p>さんのことをもっとよく知ろう</p> <p>・さんと交流したことから、聴覚障害や聴覚障害者の生活についてもっとよく知るために、音のでないテレビを見たり声を出さないで会話をしたりするなどいろいろな疑似体験活動などを通して調べ、聴覚障害や聴覚障害者との交流について課題意識がもてるようになる。</p> <p>準備可能な疑似体験メニュー 1 無音のテレビ視聴コーナー (字幕なし、字幕あり) 2 声を出してはいけない談話室コーナー (筆談用の紙と鉛筆を備え付ける) 3 生活体験コーナー (お店での買い物など) 4 その他</p> <p>第7時でこんな自分になりたいという目標がもてるようになるため、一人一人の実態把握から興味・関心を見取り、子どもが見通しをもって学習できるようにワークシートや言葉かけを工夫する。 あらかじめ子どもたちの実態把握から疑似体験のメニューをきめておき、疑似体験の場作りやワークシートを準備しておく。 疑似体験している子どもたちの様子をビデオカメラで記録し、評価に生かせるようにする。 積極的に疑似体験活動できるように言葉かけや会話などの支援をする。 安全確保の面からも疑似体験メニューの補助についてももらう。 自分なりの目標がもてるように、お互いに感想を発表しあい、本時の活動をふりかえることができるようにする。 《A-1 行動、発言、つぶやき、しぐさ、ビデオカメラ、ワークシート》 《C-2 質問、アドバイス、模範》</p>	4 5					切実な思いや願いから、こんな自分になりたいという目標がもてる。 興味のあることからこんな自分になりたいという目標がもてる。 しっかりした目標をつくるために、インターネットやいろいろな図書資料など、目的に応じた手段を選び活用することができる。 目標をつくるために、インターネットやいろいろな図書資料などが活用できる。	自分の興味のあることから、しっかりした学習課題を作る力	
	<p>自分にどんな力をつけたらいいだろう。</p> <p>・聴覚障害者と楽しくコミュニケーションしながら交流するために、自分にどんな力をつけたらいいかということから、</p> <p>ワークシートで自分なりの目標と調べる目的と方法をはっきりできるようにしてから、それぞれの興味・関心に応じた調べる活動に入れるようになる。</p>	6					聴覚障害者との関わりから自分自身を見つめ、自分を高めているような目標がたえられる。 聴覚障害者との関わりから、自分なりの目標がたえられる。		

かかわる過程

ら課題意識を高め、こんな自分になりたいという目標がもてるように、興味・関心のあることについてさらに自分なりにいろいろな方法で調べる。

ワークシートに調べる目的と方法をはっきりと書いているか、個別に机間指導する。
ワークシートに調べて分かったことを簡単にまとめ、自分なりにたてた目標がよいかどうか確かめ、次時に向けての自分なりの課題意識がもてるようにする。しっかりした目標かどうかの判断基準として、自分にとってやさしすぎないか、むずかしすぎないかということのを助言する。
ワークシートに調べて分かったことを簡単にまとめ、自分なりにたてた目標がよいかどうか確かめ、次時に向けての自分なりの課題意識がもてるようにする。

【A-1 行動、ワークシート】
【CD-2 質問、アドバイス】

「こんな自分になりたい」という目標をきめよう。

・交流会後の作文やお礼の手紙などに書いた思いや願いをもとに、さらにインターネットやビデオなどで興味のあることを調べたことから、12月に聴覚障害者をもう一度自分たちで招待してもっと楽しく交流できるようになるためには、自分にどんな力をつけたかということを考え、「こんな自分になりたい」という自分の目標がきめられるようになる。

インターネットで調べる児童はパソコン室へ移動する。(T1が担当)
ビデオで調べる児童は、1台のビデオデッキに大人数が予想されるので、ビデオのパッケージをコピーした目次を準備し、どんな内容があるかを調べさせて、児童の興味に応じて効率的に調べられるようにする。(T2が担当)
ポर्टフォリオを家庭に持ち帰り今までの活動を知らせ、保護者からの感想をもらう。

【CD-2 質問、アドバイス】
【A-1 ワークシート】
【CH-3 ポートフォリオ】

興味・関心を高めよりはっきりした課題意識を引き出すために、疑似体験活動を導入する。
子どもの内面をできる限り実態把握できるように、主にT2が観察法で目立った言動だけでなく小さなしぐさ やつぶやきにも注意する。
自分自身の良さに気づかせたり、自信をもたせるために、主にT1が言葉かけや会話法、外部からの評価を工夫する。

「こんな自分になりたい」に向けて、学習計画をたてよう

・それぞれがたてたこんな自分になりたいという目標を実現するために、具体的な4観点の努力目標(子ども自身がつくった評価基準)を考えたり、学習スケジュールを作ったりすることを通して、課題解決に向けての見通しのある学習計画をたてる。



最初、前時にたてた「こんな自分になりたい」という目標を発表して情報交換したり、保護者からのアドバイスカードを紹介したりすることにより、課題解決に向けての意欲が高められるようにする。そして、こんな自分になりたいカードの具体的な4観点の努力目標(子ども自身がつくった評価基準)を考えたり、耳が聞こえない世界をたんけんしようカードで学習スケジュールを作ったりする。しかし、しっかりした学習計画をたてる経験は、子どもたちにとってまだ慣れていないので、T1 T2で分担して個別指導などをするようにする。個に応じた支援ができるようにする。追究方法によっては、総合の時間以外の時間も学習計画の中に入る場合がある。また、完全にスケジュールが入らなくても仕方がない。スケジュールはあくまで予定なので、途中で変更しても良いことを児童にもおさえておく。

【C-2 質問、アドバイス】
【A-1 行動、つぶやき、ワークシート】

子ども一人一人がそれぞれ自分なりの学習計画をたてることできるように、観察法を主体に机間指導しながら実態をつかみ、言葉かけや会話による適切な支援を行う。

こんな自分になりたいという目標に向けて、進んで計画をたてようとする。
こんな自分になりたいという目標に向けて、楽しく計画をたてようとする。

目標に向けて、今までの学習経験を生かしながらか、自分なりに見通しのある計画が考えられる。目標に向けて自分なりに計画が立てられる。

社会科や理科など教科学習で培った学習方法を自分なりに生かしている。教科で培った学習方法を取り入れている。

これからどんなことをしていけば課題が解決できるか、上手に自分で目標や計画をたてる力

耳が聞こえない世界をたんけんしよう1、2、3

それぞれの追究活動に入る前に、本時の活動計画を4つの観点からワークシートに書き、目的意識をもって活動できるようにする。そのため、計画性が不十分な児童には、事前に個別指導しておく。
4つの観点は、追究場所、追究方法、追究内容、追究範囲(ノルマ)とする。

課題解決のために、最後までいるんな手段で調べていこうとする。
課題解決のために、楽しく調べていこうとする。

いろいろな手段で調べたことが、断片的な知識になってしまうのではなく、関係付けてとらえることができる。
調べたことを自分なりに意味づ

わからない

<p>さんの職場見学のための 全体指導 人をお願いをする時のマナーを指導する。 職場見学の目的や内容をはっきりもつこと。 ファックスやメールの基本的なマナーやモラル</p>	<p>追究場所が教室以外の場所にわかれたり、追究方法が多岐にわたるので、TT で分担して対応できるようにする。 追究活動後、2つの観点で自分の追究活動を振り返る。2つの観点は、 追究活動の反省、 次に向けての課題や授業以外で追究したいこととする。そして、自分自身がきめた4つの評価基準で自己評価する。</p>	<p>けすることができる。 図書室で目的の資料を探したり、資料から調べたいことを上手に見つけたり、視聴覚資料を効果的に活用するなど、今までの学習経験を生かしてわからないことを粘り強く調べていくことができる。 図書資料や視聴覚資料などからわからないことを調べていくことができる。</p>	<p>ことをいろいろな手段で調べる力</p>
<p>・それぞれがたてた「こんな自分になりたい」という目標を実現するために、4観点の努力目標(子ども自身がつくった評価基準)や学習スケジュールなどのそれぞれの学習計画にそって、追究活動する。</p>	<p>職場見学を希望する子どもはT2が担当する。職場見学を希望する子どもはT2が担当する。全体指導したことから、宿題で考えてきたお願いの文章を発表しあい、よいかどうかもう一度考えられるようにする。その後、前時と同じように、本時の活動計画を4つの観点からワークシートに書き、目的意識をもって活動できるようにする。お願いの文章が不十分だと考えられるので、この後の追究活動での追究内容に課題として入れてもいいことを投げかける。</p>	<p>家族や地域の人に聞いたり確かめたりするなど、生活と結びつけて考えたり調べたりできる。家族や地域の人に、調べたいことを聞いたり、調べたことを確かめたりすることができる。</p>	
	<p>《A-1 行動、つぶやき》 《C-2 質問、アドバイス》 《A-3 ワークシート、ポートフォリオ》</p>		
	<p>はじめに、橋詰さんに職場見学のお願いをした児童に対して、橋詰さんから早く返事がきたらいいねと投げかけ、これからの追究計画の見通しがもてるようにする。 そして、いよいよ来週中間発表会をするので、自分が追究してきたことを一人1分から3分で自分なりにまとめて発表できるようにしておくことを確認する。中間発表会用のワークシートを配布して、児童が発表に自信がもてたり、教師が実態を把握できるようにする。 その後、前時と同じように、本時の活動計画を4つの観点からワークシートに書き、目的意識をもって活動できるようにする。事前にポートフォリオを見ておき、計画性が不十分な児童には個別指導する。</p>	<p>課題解決のために、情報機器を進んで活用しようとしている。情報機器を楽しく活用しようとしている。</p>	
	<p>《A-1 行動、つぶやき、ワークシート》 《C-2 質問、アドバイス》 《A-3 ワークシート、ポートフォリオ》</p>	<p>インターネット検索やパソコンソフトなどの情報機器を、目的に合わせて上手に使いこなすことができる。 インターネット検索やパソコンソフトなどの情報機器を使って調べることができる。</p>	<p>コンピュータやデジタルカメラなどをじゃぶじゃぶにつかえる力</p>
	<p>自分自身の良さに気づかせたり自信をもたせるために、相互評価や外部評価を工夫する。 自分自身の学びを振り返り、実力を十分に発揮できるような学習計画がたてられるように、自己評価や相互評価を工夫する。 子ども一人一人がそれぞれ自分なりの追究活動ができるように、観察法を主体に机間指導しながら実態をつかみ、言葉かけや会 話による適切な支援を行う。 追究活動は一人一人多岐にわたるので、事前に個人別に評価項目をきめて評価活動をする。また、評価項目が偏らないように、全6時間を通して全評価項目を計画的に評価出来るようにする。</p>		

自分の追究活動をふりかえろう

<p>自分自身の学びをふりかえる場1 発表会1) 中間発表会</p> <p>・今まで追究活動してきたことを、中間発表会で自信をもって発表できるようにするとともに、友だちの発表から良いところを学び、自分の追究活動を振り返られるようにする。</p>	<p>中間発表用ワークシート(NO.11)に発表する内容をまとめておいたり、それをもとに練習したりするなど、一人一人が事前に自信をもって上手に発表できるように支援をT1がしておく。 上手に発表したり、しっかり発表を聞いたり出来るように、教室環境など場の設定を工夫する。 次時で意見交換や情報交換が出来るように、ワークシートに友だちの発表の良いところやアドバイスなどをメモするように指導する。 発表ごとに質問や感想の時間もとれるよう配慮する。 全員が発表した後、保護者が参加していた場合、感想などを話してもらおうなど、外部評価を取り入れる。</p>	<p>友だちの良いところや助言を取り入れたたり、逆に適切な助言ができたりするなど、協力して学習することの良さを進んで取り入れようとする。 友だちと協力して学習したことを、自分の追究活動に生かしていこうとする。</p>	<p>友だちと協力して学習できる力</p>
	<p>《A-1 発表》《C-4 ワークシート、発表》 《CH-5 言葉》</p>	<p>お互いが高め合えるように、上手に意見交換や情報交換が出来る。</p>	

たかまる過程

・前時の中間発表会で、友だちの追究から学んだことをお互いに意見交換や情報交換などを行い、交流活動をおこなう。はじめに全体で一人一人が前時のワークシートに書いたメモを活用して発表する。次に自分が興味ある追究をした友だちやこれから同じ追究をする友だちと情報交換する。これらの活動から自分の追究活動をもつ一度振り返り、後半の学習計画について自分なり見直しをもって修正する。時間が余れば、それぞれの追究活動をする。

はじめに全体で一人一人の発表しているところを録画したビデオを観て、自分や友だちの発表を冷静に振り返ることができるようにする。騒いだりしてビデオに集中できなかったり、表面的な見方で終わらないように、みんなでビデオを観る視点やマナーを指導したい。友だちのビデオを観る視点は、主に発表内容とする。ワークシートに自分の発表の感想をメモしておくよう指示しておく。自分の追究に関係あることで、友だちから教えてもらいたいことや、友だちのためになる情報があり自分から教えてあげるなど、主体的な交流活動の時間になるようにしたい。このあとふるさと学習発表会や2回目の交流会に向けて一人よりグループで追究していきたいという意見が出てきたら、グループ活動も支援できるようにしていきたい。

17
18

意見交換や情報交換が出来る。

《ABC - 3 ワークシート、ポートフォリオ》
《ABC - 4 発表、ワークシート》

自分の追究してきたことを自信をもって発表できるように、発表用のワークシートの工夫をしたり、今までの観察評価による追究活動の実態から、子ども一人一人に応じた発表内容に対する具体的な支援を、言葉かけ・会話などによって行う。友だちと協力して学習できるように、中間発表会や情報交換などの交流の場を設定するなど、相互評価を工夫する。中間発表会では保護者の参加を呼びかけ、外部評価を行う。

振り返りから新たな追究活動しよう

・中間発表会などを通してこれまでの追究活動について自分なりに自己評価している。ふるさと学習発表会に向けて追究活動していくことも意識しはじめている。そこで、修正した目標や学習計画から、新たな追究活動をおこなう。交流をしている聴覚障害者の職場見学をするグループ、インターネットで調べるグループ、本で調べるグループ、ビデオで手話を覚えるグループなど、コース別に追究活動をおこなう。

コース別に追究活動をおこなう。職場見学の計画・準備は、子どもが主体的に出来るような支援を事前にT1がしておく。職場では他のお客さんの迷惑にならないように十分配慮する。

《ABE - 1 行動、発言、ワークシート》
《CD - 2 質問、アドバイス》

保護者からのアドバイスを学級通信等で紹介し、クラス全体で共有できるようにしたい。その際、ただ配布するだけでは読まない子どももいるので、導入などで活用したい。子ども達に本時の学習のねらいをしっかりと伝えるために、評価の観点「今までの自分の知識を合わせたり、調べてわかったことからまねをしないで新しく自分の考えをつくらう！」を初めにわかりやすくアドバイスしたりけいじするなどしておさえおくようにする。ファイルを整理することにより自分自身の追究を振り返り、目標に向けて自分なりの考えがしっかりもてるようにしたい。自分のファイルボックスのファイルを整理したり、クリアファイルの中の特に必要ないものをファイルボックスにもどしたりして、今後の追究活動で特に必要なものをファイリングする。

19
20
21
22

進んで自分なりの考えから、さらにより良い考えをつくらうとする。進んで自分なりの考えをつくらうとする。今までと違う見方や考え方を進んで取り入れながら、新しく自分の考えをつくらうことができる。友だちのちがった見方や考え方から、自分の考えをふりかえることができる。

今までの自分の知識を合わせたり、調べてわかったことからまねをしないで新しく自分の考えをつくらう

中間発表会で今までの自分自身の追究を振り返ったことから、より意欲的に新たな追究活動ができるように、今までの観察評価による追究活動の実態から、子ども一人一人に応じたより具体的な支援を、言葉かけ・会話などによって行う。目標の達成のために、自分自身の学びに対する評価能力を高めていくことが出来るように、自己評価や相互評価、外部評価の方法を工夫する。具体的な方法として例えば、ファイルを整理することにより自分自身の追究を振り返り、目標に向けて自分なりの考えがしっかりもてるようにしたい。また、保護者からのアドバイスを学級通信等で紹介し、クラス全体で共有できるようにしたい。その際、ただ配布するだけでは読まない子どももいるので、追究活動の導入などで活用したい。子どもの追究活動の実態に応じて、適時「友だちと協力して学習できる力」や「パソコンやデジカメを上手につかえる力」なども、評価していきたい。

学習した成果を、みんなの前で工夫して発表しよう

・ふるさと学習発表会で上手に発表するために、それぞれが計画している発表の準備や練習をする。

初めに一人一人が見直しをもって追究活動（発表会に向けての計画・準備）ができるように、ワークシートに簡単に4つのことを書くようにする。また、グループでの協力の大切さやきまりなどについても簡単に指導する。1人が2つのグループにまたがっている子どももいるので、片方だけにならないように時々注意して見守りたい。本時だけでは準備が終わらないので、発表会に向けてどんなことをしたらよいか自分自身で見通しがもてるように2つのしを書く。

《ABE - 1 行動、発言、ワークシート》
《CD - 2 アドバイス》

進んで発表の計画や準備に取り組み、わかりやすい発表の工夫を考えようとしている。楽しく発表の計画や準備に取り組みようとしている。

学習した成果をわかりやすく伝えるにはどのように発表したらよいか、聞く人の立場にたって考えることができる。学習した成果をわかりやすく伝えるにはどのように発表したらよいか、自分なりに考えることができる。

学習したせいかをみんなの前でくふうして発表できる力

わかりやすい発表を工夫するた

《ABCDEF-3 ワークシート、ポートフォリオ》

23
24

めに、今までの発表経験を生かして、限られた時間の中で上手に計画や準備ができる。
わかりやすい発表を工夫するために、発表の計画や準備ができる。

聞く人に訴える発表をするために、生活との関わりから方法や内容の工夫を考えることができる。

聞く人に訴える発表をするために、自分なりに方法や内容の工夫を考えることができる。

ふるさと学習発表会

・ふるさと学習発表会で発表する。

自分自身の学びをふりがえる場2
ふるさと学習発表会

発表のビデオ映像を見たりして、ワークシートによる自己評価や相互評価をしたい。また作文なども書き、身についた力などの実態把握をしたい。保護者からの外部評価なども取り入れられるように、発表会の感想などの協力をいただけるようにする。

25

職場見学で子ども達自身が取材したビデオ映像や画像や授業風景などの画像などを、教師側で子ども達が考えた発表内容に合わせてビデオテープに編集し、プロジェクターなどで使えるようにするなどの支援を行い、ふるさと学習発表会に向けての追究活動（計画・準備）がより意欲的にできるようにする。
グループの中で一人一人が今までの追究活動の成果を十分に発揮できるように、導入で見通しのある簡単な計画を一人一人たてるようにしたり、机間指導で子ども一人一人に応じたより具体的な支援を、言葉かけ・会話などによって行う。
目標の達成のために、自分自身の学びに対する評価能力を高めていくことが出来るように、自己評価や相互評価、外部評価の方法を工夫する。
観点別評価は、活動が個別であったり時間外になったり一人一人多岐にわたるので、観察によって適時行ったり、ワークシートでの自己評価や発表会後の作文、外部評価などから総合的に行う。

今まで追究してきたことを生かして、橋詰さんと剣持さんを招いて楽しい交流会を開こう1

・今までの学習活動をふりかえり、2回目の交流会に向けて、計画をたてるために話し合いをする。

2回目の交流会をどんな交流会にしたいか投げかけ、一人一人具体的にイメージをふくらませるようにしたい。
学級会での話し合い経験を生かして、みんなで上手に交流会の計画が話し合えるように支援していきたい。

《AB-1 行動、発言》

27
28

今まで学習したことを進んでふりかえり、次の学習に向けて自分をさらに高めていくことのできる新たな価値ある目標を考えようとする。
今まで学習したことをふりかえり、次の学習に向けてより良い目標をつくることのできる。

自分の学習をふりかえり、次の学習をより良くしていく力

今までの学習をふりかえったこと、自分自身をさらに高めていくことのできる新たな価値ある目標をつくり、見通しのある計画をたてることのできる。

今までの学習をふりかえり、より良い目標や見通しのある計画をたてることのできる。

ポートフォリオなどで振り返ったことを、これからの学習に上手に生かしていくことができる。
ポートフォリオなどで振り返ったことを、これからの学習に自分なりに生かしていくことができる。

身近な生活や障害者の生きる社会との関わりから、将来に向けての生き方を自分なりに考えることができる。
身近な生活との関わりから、自分の考えをもつことのできる。

むきあう過程

・今まで追究してきたことを生かせるように、2回目の交流会の準備をする。

子ども一人一人の主体的な活動を期待したい。そのために TT で個に応じた支援に努められるようにしていきたい。

子ども一人一人が今まで追究し身に付けた力を生かそうとすることが出来る場として、聴覚障害者や手話通訳者との2回目の交流会を設定し、学ぶ喜びを味わうことのできる学習過程の工夫をする。
今まで学習してきたことを進んで振り返ることが出来るように、これまでの自分の学びの道筋がわかる学習ファイルの整理を行うなど、ポートフォリオ作り活動を取り入れ、自己評価の工夫をする。
これまでの評価活動による実態把握から、学習活動や支援の工夫の改善を行い、子ども一人一人が自分に自信がもてるように、さらに理想をもって追究していくことができるように、一人一人に応じた評価活動を行う。

今まで追究してきたことを生かして、橋詰さんと剣持さんを招いて楽しい交流会を開こう2

・交流会を前日にひかえて、主体的に準備を進める。

子ども一人一人の主体的な活動を期待したい。そのために活動前に自分の目標と評価規準を確認するように言葉かけする。
一人一人の行動を観察しながら、最小限の範囲で活動がより意欲的に取り組めるような言葉かけをする。

29
30

自分たちが計画した交流会を成功させるために、いろいろな活動に進んで取り組もうとする。
自分たちが計画した交流会に楽しく取り組もうとする。

<p>第2回交流会</p> <p>・自分たちが計画し準備してきた交流会を行う。</p>	<p>《D-1行動、発言》 《D-2質問》 《ABCDEG-3ポートフォリオ》</p>				
	<p>はじめから最後まで、できるかぎり子どもたちの主体的な活動を見守れるような支援をしていきたい。 安全面などには十分配慮したい。 交流会後、作文や保護者、外部講師などからの評価などをもとに、子ども一人一人の学びのプロセスや身についた力、教師の願いなどを総合的に評価し、通知票や要録への評価、今後の総合的な学習の指導に生かしていけるようにする。 観察だけでなく、会話（インタビュー）なども評価法に取り入れてみたい。</p>	31			
<p>子ども一人一人が今まで追究し身に付けた力を生かそうとすることが出来る場として、聴覚障害者や手話通訳者との2回目の交流会を設定し、学ぶ喜びを味わうことができる学習過程の工夫をする。 今まで学習してきたことを進んで振り返ることができるように、これまでの自分の学びの道筋がわかる学習ファイルの整理を行うなど、ポートフォリオ作り活動を取り入れ、自己評価の工夫をする。 これまでの評価活動による実態把握から、学習活動や支援の工夫の改善を行い、子ども一人一人が自分に自信がもてるように、さらに理想をもって追究していくことができるように、一人一人に応じた評価活動を行う。 授業以外の時間にも主体的に交流会の準備などを行うことが見られることも予想される。例えば招待者への連絡、教室内の環境整備など。そういった活動も評価や支援の対象ととらえる。</p>	32				
<p>実践後の実態把握</p>	<p>《ABCDEFGH-3ポートフォリオ、作文、お礼の手紙》</p>				<p>友だちのいろいろな考えの良いところを合わせながら、みんなで協力して交流会の計画や準備ができる。 友だちの考えの良いところがわかり、みんなと楽しく交流会の計画や準備ができる。</p> <p>聴覚障害者との交流学习を通して、いろいろな人とコミュニケーションすることの良さがわかり、これからの生活の中で積極的に交流の輪を広げていきたいという自覚ができる。 聴覚障害者との交流学习を通して、いろいろな人とコミュニケーションすることの楽しさがわかる。</p>

評価計画のための評価の目的と方法の相関表

評価の主体と評価方法		・・・主として活用する		・・・補助的に活用		x・・・不適	
		観察	言葉かけ・会話 質問 アドバイス 模範 など・・・	自己評価	相互評価	外部	
評価の対象と目的	方法	ワークシートの書き込み つぶやき しぐさ デジタルビデオ など・・・		作文 ワークシート チェックシート ポートフォリオ お礼の手紙 など・・・	作文 ワークシート チェックシート 話し合い 発表 など・・・	言葉、手紙やメールなどによる感想 アドバイス チェックシート など・・・	
	主体	教師	子ども			保護者・地域	
目的	対象	1	2	3	4	5	
一人一人の実態把握	A						
身についた力を見取るため	子ども						
学習意欲を高めるため	一人ひとり	x					
生き方を問いかけるため	D	x					
学習活動の改善のため	教育活動						
教師の指導力向上のため	教師						
通知票や指導要録の資料として	教育内容						
地域や保護者に対する啓発	地域	x	x		x		

やx は、授業実践後に修正されたということ